

町政の現状認識と今後の展望は

発展に漫然とせず挑戦する

井田 理恵 議員



問 約40年を遠大な目標値とした町の発展的将来設計「長期振興計画」が残り3年余りとなった。10年スパンの計画的執行により町の成長は目ざましい。

一方、昨今の統計から推測すると生産年齢の人口増加、経済発展も落ちついたと見られる。これから本格的に訪れる町の少子高齢化に対する収支バランスを見据えた展望を問う。

企画財政課長

国立社会保障人口問題研究所の推計による当町の将来人口は平成27年をピークに減少傾向、高齢化率は、27年から25・7%〜5年ごとに約3%ずつ上昇、2040年には10名中4名が高齢者になる。

自立後、10年先の財政シミュレーションを立て組織の効率化・事務・事業改

革・経費削減に取り組んできた。

近々では学校給食の統合等、先人の努力を引き継ぎ自律協働の町として筋肉質財政となった。今後は、国の有利な補助金等に対し更にアンテナ高く取捨選択しながら事業を進めていく。

町長

今後は、発展に漫然とせず挑戦する心構えが大事。世代間交流センター建設の様に国・県の財政措置があるものをいち早く活用、取り組む姿勢で将来に生きる事業をダイナミックに実らせていく。



明日を担う子どもたち

雪窓湖の管理を

余水吐けの適切な管理で

市村 千恵子 議員



問 雪窓湖の現状は、藻や水草が大量に繁茂し、水が見えない状態となっており、近くの住民の方や遊歩道を散策する方や釣りを楽しむ人からの湖の浄化を望む声が多い。

今回の台風18号の影響で増水したため、藻や水草が流れ出し、排水路がつまり、災害を起こしている。衛生面や防災面からも雪窓湖の適切な管理が必要と思うが、町の考えは。

産業経済課長

雪窓湖は、農業用溜池施設として昭和39年に完成した。西軽井沢地区北の千ヶ滝湯川用水の温水路から取水し、雨池用水を経由、下流域の児玉地区の水田に供給している。

灌漑面積5ha、満水面積8千300㎡、有効貯水量7千328㎡の施設規模となっている。

る。

平成19年から22年にかけて、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業を導入した。老朽化した堤体のコンクリート護岸を大型波除けブロックに替え、遊歩道やトイレ建築、交流広場の工事を行い、湖内に堆積した泥土を浚渫した。

9月16日の台風18号によつて被害をもたらした原因は、余水吐け暗渠入口の鉄の柵に湖内に繁茂した藻がつかえたため、流水が遮られ、溢水して民家内に流れ出て、床下浸水となった。今後の対策として、災害時に備え、余水吐けの管理を適切に実施していく。



雪窓湖

台風18号による被害状況は

伍賀地区を中心に被害

茂木 勲 議員



問 9月15日から16日にかけて、日本列島に上陸した台風18号による当町の被害と今後の対応について問う。

1、被害状況は

2、復旧計画は

総務課長

当町では16日午前4時から午後3時までの総雨量が99・5ミリあった。伍賀地区を中心に用水の氾濫、道路農地の崩落の被害があった。

被害件数は、38件で概算被害総額は、655万円以内訳は、用水・側溝等の氾濫決壊・埋没16件、道路・農地・土手などの崩落・陥没・洗堀・土砂の流入が23件あり、また住宅への雨水流入が2件あった。

産業経済課長

耕作者が日頃から農地の保全を行っているにもかかわらず、被災した災害に対しては町が災害復旧工事で対応する。道水路管理に完全に瑕疵があった場所を除き、平成22年11月に策定した土地改良事業負担金に関する内規による工事費の10分の1以内で上限5万円の受益者負担をいただく。

町長 災害復旧に対する方針は、当然町民の皆様の税金から充てる事から、公平性が非常に重要な基準になる。町づくりの方向としては「長期振興計画」「協働の町づくり計画」を基に実施計画を立て、その基本方針で対応していく。



面替区崩落現場

御代田町・小諸市議会議員研修会 10月23日

〈本当に幸せな健康地域を目指して〉

小諸市ベルウィンこもろにおいて御代田町・小諸市議会議員研修会が開かれた。演題は、「本当に幸せな健康地域を目指して」日本一の医療福祉のコミュニティを作るには、講師はNPO法人佐久平総合リハビリセンター代表の中村崇氏である。



平成3年に理学療法士としてスポーツリハビリをやりたいと思ったが、当時はリハビリということが馴染みがなく、初回の学習会には3人の参加が、半年後は100人になり、リハビリ友の会ができるまでに定着した。

「集って、突って、触って、納得することが大事であり、地域のコミュニケーションづくりが大切である」と訴えられた。

広域的にリハビリを広めたい、それには整形外科の医師を増やすこと、定着させることに心血を注ぎ、平成15年に医療法人佐久平整形外科クリニクを開業し、同年にNPO法人佐久平総合リハビリセンターを開設した。リハビリの啓発と後継者育成に力を入れ、200名の理学療法士が育っているとのことである。(10年間に長野に3院、東京に3院を開業した。)

健康のためにお金をかけない、住民に運動する習慣をつくるのが大事で、公民館に集って運動することを広めているとのこと。「集って、突って、触って、納得することが大事であり、地域のコミュニケーションづくりが大切である」と訴えられた。

中村 千恵子

「集って、突って、触って、納得することが大事であり、地域のコミュニケーションづくりが大切である」と訴えられた。

当町において、中村氏の講演を聴かれ、運動・ストレッチの大切さを教わった方も多いのではないかと思います。

今ではリハビリの大切さ